

H25

中核

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」実績報告書

1. 分野名

①環境・エネルギー

「その他」分野名

2. 事業名称

環境エネルギー分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業

3. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

産学官連携コンソーシアム

4. 代表機関

■ 代表法人(申請法人)等

法人名	学校法人小山学園
理事長名	山本 匡
学校名	専門学校東京テクニカルカレッジ
所在地	〒 164-8787 東京都中野区東中野4-2-3

■ 事業責任者(事業全体の統括責任者)

職名	理事
氏名	佐々木 章
電話番号	03-3360-8831
E-mail	sasaki@tera-house.ac.jp

■ 事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

職名	学園本部 企画部
氏名	開田 実
電話番号	03-3360-8153
FAX番号	03-3360-8830
E-mail	hirakida@tera-house.ac.jp

5. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

(1) 構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ	カリキュラム開発・実証	東京
2	学校法人小山学園 東京工科自動車大学校	カリキュラム開発・実証	東京
3	学校法人有坂中央学園 中央工科デザイン専門学校	カリキュラム開発・実証	群馬
4	学校法人重里学園 日本分析化学専門学校	カリキュラム開発・実証	大阪
5	学校法人コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校	カリキュラム開発・実証	兵庫
6	法政大学 建築環境設備研究室	カリキュラム開発・実証	東京
7	日本大学 生産工学部研究所	カリキュラム開発・実証	千葉
8	筑波大学 大学研究センター	カリキュラム開発・実証	東京
9	株式会社日本総合研究所	シンクタンク・カリキュラム評価	東京
10	株式会社ヴェリア・ラボラトリーズ	エネルギーコンサルティングカリキュラム	東京
11	株式会社ジオリゾーム	地盤・水・自然環境カリキュラム	大阪
12	株式会社パデセア	カリキュラム開発・実証	東京
13	株式会社九電工	カリキュラム開発・実証	福岡
14	株式会社東急エージェンシー	普及・啓発・広報	東京
15	社団法人環境プランニング学会	評価認証研究	神奈川
16	東京商工会議所 検定センター	普及・啓発・社会人実証	東京

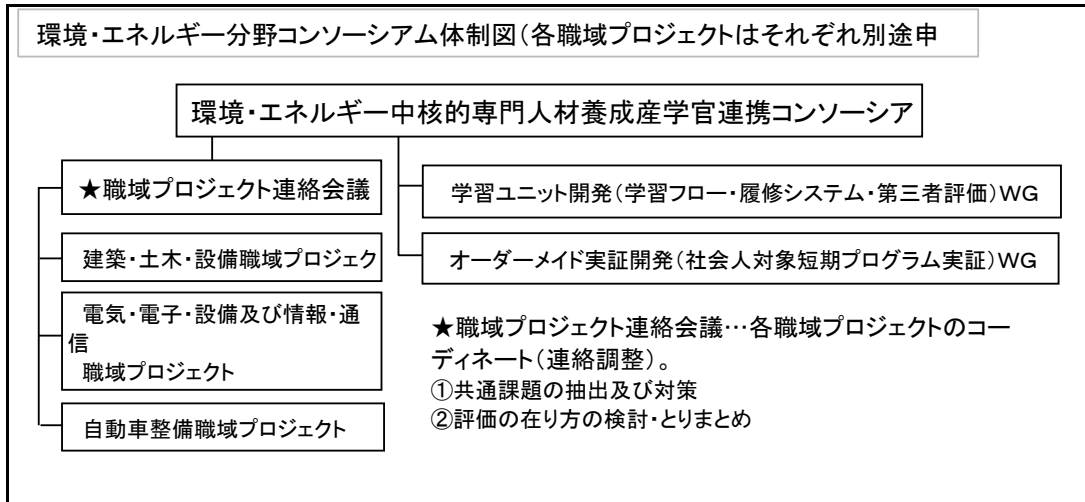
(2) 協力者等(委員など個人で本事業に参画する者等)

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
川瀬 健介	NPO法人生活環境づくり21 専務理事	普及・啓発・社会人実証	東京
生駒 正文	吉備国際大学 知的財産部 教授	知財カリキュラム開発	兵庫
稲永 由紀	筑波大学 大学研究センター 講師	質保証認証評価	東京
荒井 隆一郎	東京商工会議所 中野支部 事務局長	普及・啓発・社会人実証	東京
井上 利一	株式会社ジオリゾーム 代表取締役	地盤・水・自然環境カリキュラム	大阪
岡田 直士	株式会社九電工 エネルギーソリューション部 課長	カリキュラム開発・実証	福岡
西村 実	株式会社アイ・エス・ソリューション 代表取締役	カリキュラム開発・評価	東京
福岡 壯治	学校法人コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校	カリキュラム開発・実証	兵庫
小野木 正人	株式会社新環境経営研究所 代表取締役	ISO関連カリキュラム	大阪
平林 良人	社団法人環境プランニング学会 副会長	カリキュラム開発・実証	神奈川
澤登 信子	株式会社ライフカルチャーセンター 代表取締役	カリキュラム開発・実証	東京
筒見 憲三	株式会社ヴェリア・ラボラトリーズ 代表取締役	エネルギーコンサルティングカリキュラム	東京
柴田 裕子	オリックス株式会社 新宿支店主任	エネルギーコンサルティングカリキュラム	東京
横澤 盛男	有限会社ビーアイピー 代表取締役	キャリア開発(ジョブカード)	神奈川
吉川 隆治	株式会社マスターリンク 営業部長	普及・啓発・広報	東京
菅野 国弘	全国専修学校各種学校総連合会	教育関連団体	東京

(3) 下部組織 (設置は任意)

名称(職域プロジェクト連絡会議)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
佐々木 章	学校法人小山学園	環境・エネルギー中核的専門人材養成コンソーシアム	東京
三上 孝明	専門学校東京テクニカルカレッジ	建築・土木・設備等職域プロジェクト	東京
八木 信幸	中央工科デザイン専門学校	電気・電子・設備等職域プロジェクト	群馬
佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校	自動車職域プロジェクト	東京
開田 実	学校法人小山学園	事務局	東京
名称(学習ユニット開発(学習フロー・履修システム・第三者評価)WG)			
佐々木 章	学校法人小山学園	環境・エネルギー中核的専門人材養成コンソーシアム	東京
岡田 直士	株式会社九電工 エネルギーソリューション部 課長	カリキュラム開発・実証	福岡
黒柳 要次	株式会社パデセア	企業ユニット	東京
平林 良人	社団法人環境プランニング学会	企業ユニット	神奈川
澤登 信子	株式会社ライフィカルチャーセンター	企業ユニット	東京
八木 信幸	中央工科デザイン専門学校	専門学校ユニット	群馬
出口 清孝	法政大学 建築環境設備研究室	大学ユニット	東京
須藤 誠	日本大学 生産工学部研究所	大学ユニット	千葉
生駒 正文	吉備国際大学 知的財産学部 教授	知財ユニット	兵庫
稲永 由紀	筑波大学 大学研究センター 講師	質保証認証評価	東京
高瀬 恵吾	専門学校東京テクニカルカレッジ	専門学校ユニット	東京
今野 祐二	専門学校東京テクニカルカレッジ	専門学校ユニット	東京
杉本 安雄	学校法人小山学園 広報本部	専門学校ユニット	東京
名称(オーダーメイド実証講座プログラム開発WG)			
佐々木 章	学校法人小山学園	環境・エネルギー中核的専門人材養成コンソーシアム	東京
川瀬 健介	NPO法人生活環境づくり21 専務理事	企業ユニット	東京
荒井 隆一郎	東京商工会議所 中野支部 事務局長	企業ユニット	東京
澤登 信子	株式会社ライフィカルチャーセンター	企業ユニット	東京
八木 信幸	中央工科デザイン専門学校	専門学校ユニット	群馬
出口 清孝	法政大学 建築環境設備研究室	大学ユニット	東京
霜崎 敏一	東京商工会議所 検定センター 所長	企業ユニット	東京
福井 正文	株式会社東急エージェンシー マネージャ	普及・広報	東京
大江 宏明	専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科长	専門学校ユニット	東京

(4) 事業の実施体制図(イメージ)



6. 事業の内容等

(1) 事業の目的・概要

新しい成長分野である「環境・エネルギー分野」において、省エネ・温室効果ガス排出削減等を推進するため、経済団体や個々の企業、研究機関及び教育機関が蓄積した知識及び技術等を基に、多岐に関連・関係する産業分野を縦断的に把握・考察できる人材(環境をアセスメントしコーディネート、プロデュースできる人材)の養成を目的とし、同分野で必要とされる安全・安定供給・効率化・経済化・変化する環境等の要請に応える中核的人材養成のモデル・カリキュラム基準等の構築を目指す。さらに、企業・団体における活用促進のために、社会人を対象とした学習ユニット(職域別科目群)の開発と評価指標を示す。

(2) 事業の実施意義や必要性について

① 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義
我が国における環境・エネルギー分野の人材需要は、平成23年度実施した企業調査(アンケート調査1,000社・業種別規模別重要項目のクロス集計・分析)から、環境・エネルギー分野における専門人材の必要性が高まっているとの結果が出た。
それは、調査した企業の約半数が社内に専門家を必要としているという回答から導き出されたものである。その中で必要とされる人材像は、エネルギープランナー(中級)レベルが全体の33.6%であり、次いでプロデューサー(上級)レベルが20.1%、アセッサー(初級)レベルが19.4%となっている。
必要なしと答えた企業は、20%に留まり全体で80%の企業は専門家を必要としている。
特に、建設業、電気・ガス・水道業、製造の各業界においては、環境・エネルギー分野の専門知識を有する専門技術者へのニーズがアンケート調査からでも今後さらに高まってくると見られる。
また、これらの業界では主要事業に関連する国家資格等の技術系検定(資格 建築士、電気工事士、電気主任技術等)も関連する知識・技術として重要視していることも明らかとなった。

② 取組が求められている状況、本事業により推進する必要性
新成長戦略のうち、既に実践キャリア・アップ戦略で打ち出されている能力評価基準及び人材育成プログラムを一体的に構築する「キャリア段位制度」では、第1次対象プランに「環境・エネルギー分野」が取り上げられ、「カーボンマネジャー人材」の育成に向けた取組を進めている。
また、平成23年度実施した環境モデル都市の視察において、環境・エネルギー分野の実行計画作成と実績把握などが課題となっており、このような計画作成や調査・測定業務を行う中核的な専門人材が必要である。つまり、総合的なプランナーやプロデューサーとしての役割・機能を有する者、人材養成が必要であるとの視察結果が得られた。
しかしながら、今後の日本産業界が避けて通れない環境・エネルギー分野の問題解決を担う中核的専門人材養成の取組は極めて重要であるにも関わらず、現実にはこのような専門的な人材を育成するカリキュラムや教育機関の存在はない。
よって、専門学校や大学等の高等教育機関、さらにはメーカー系とユーザー系の産業界とが協力・連携して、多岐にわたる「環境・エネルギー分野」の知識及び技術、さらにシステム等を活用・応用し、効果的かつ経済的に省エネ・温室効果ガス排出削減を実現できる人材養成しなければならないと考えられる。

(3) 前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性

<p>(平成23年度事業)</p> <p>・取組概要 環境・エネルギー分野において、アンケート集計・分析(有効回答数225社)および環境モデル都市高知県橋原町への視察を含めた実態調査の実施</p> <p>・事業成果 アンケート集計結果:必要とされる人材像は、エネルギープランナー(中級)レベルが全体の33.6%であり、次いでプロデューサー(上級)レベルが20.1%、アセッサー(初級)レベルが19.4%となり、必要な人は20%に留まった。 全体で80%の企業は環境・エネルギーへの技術者を必要としており、取り組みの必要性と重要性を認識していることがわかった。 特に、建設業、電気・ガス・水道業、製造業の各産業界から需要が高い。</p> <p>・本年度事業との継続性(成果を今年度の取組にどのように活用するのか) どの産業界でも環境・エネルギーに関する最低限必要な知識を習得できる人材養成カリキュラム開発(環境・エネルギー分野のリテラシー)を行う。さらに、質を保証するための前提として必要な科目の見える化(シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業カルテ解答・解説の作成、授業アンケート)を行う。</p>
<p>(平成24年度事業)</p> <p>・取組概要 カリキュラムの精査のために、環境モデル都市北九州市エコタウン「東田地区」への視察、福岡市環境先進企業へのヒアリング等を実施し、横断的に受講可能なカリキュラムのユニット化を行うとともに、受講システム(シラバス・コマシラバス、授業シート、授業カルテ、授業アンケート等)の実証実験(講座)を実施。 実証講座「環境基礎講座」、「環境プランニング概論」、「カーボンマネジャー概論」の3講座。</p> <p>・事業成果 教育の質の保証において、①履修・評価システム、②カリキュラムチャート、③シラバス・コマシラバス、④授業シート、⑤授業カルテ、⑥授業カルテ解答・解説を作成実施。 受講者アンケート調査により、学習できる環境整備(場所、時間、科目数等)を求める声が多く出た。</p> <p>・本年度事業との継続性(成果を今年度の取組にどのように活用するのか) 前年度までに開発した①カリキュラム、②履修・評価システム、③カリキュラムチャート、④シラバス・コマシラバス、⑤授業シート、⑥授業カルテ、⑦授業カルテ解答・解説等を精査し、多くの産業界で活用可能な学習ユニット開発(職域別ユニットのモデル化)を産官学連携コンソーシアムで行ない、業界団体等の第三者による評価・認証システムの構築を図る。 さらに、社会人の学び直し機能として、キャリア評価の実践的プログラム開発(単位制、ジョブカード等の連携)と前述の職域別ユニットによるオーダーメイド型プログラムの実証実験を地域限定(主に東高産学連携等の中堅企業対象)で行う。</p>

(4) 事業の成果目標

<p>①事業計画書に記載されている活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム) 環境・エネルギー分野における産業界の汎用的(横断的)な共通科目作成による学習ユニット化(職域別ユニット化)が期待され、それに伴う質の保証の可視化(職域別学習フロー、シラバス・コマシラバス、評価認証等)の作成が求められる。</p> <p>②上記目標等に対する達成等状況 開発プログラムの産業界の汎用的活用の実証実験として、企業のオーダーメイド型(開発カリキュラムの内、科目汎用性の開発)講座を3団体に実施。企業の業種による科目の汎用性を検証するとともに、受講前提となる質の保証=可視化をシラバス、コマシラバス、授業シート、授業カルテ、テキスト等の教材を開発し、それらの有効性をアンケート調査等により実証した。</p>

【各回詳細】

・環境・エネルギー分野全体会議

日 時:平成25年8月29日 18:00～20:00

参加者:19名(総勢91名)

議 題:1)本事業代表者挨拶、2)文部科学省より事業説明、3)産学官連携コンソーシアム事業説明、4)各職域プロジェクト事業説明(建築・土木・設備職域プロジェクト、自動車整備職域プロジェクト、電気・電子・設備及び情報・通信職域プロジェクト)、5)その他(意見等)

・第1回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年9月30日 17:00～19:00

参加者:5名

議 題:1)実習講座について(講師選定、実証講座開催時期)、2)履修85科目シラバス・コマシラバスの作成について、3)質の保証(=見える化)について(「授業シート」、「授業カルテ」、「授業カルテ解答・解説」、「履修判定試験」等作成について)

・第1回 産学官連携コンソーシアム実施委員会全体会議及び職域連絡会議

日 時:平成25年10月31日 18:00～20:00

参加者:19名

議 題:進捗状況報告と今後の活動内容について(産学官連携コンソーシアム、建築・土木・設備分野職域プロジェクト、自動車整備分野職域プロジェクト、電気・電子・設備及び情報・通信分野職域プロジェクト)

・第2回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年10月31日 20:00～21:30

参加者:5名

議 題:オーダーメイド型実証講座について(どのような内容を求めているのか、対象者(受講社員)、開催時期について)

・第3回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年11月6日 13:30～15:00

参加者:5名

議 題:オーダーメイド型実証講座について(どのような内容を求めているのか、対象者(受講社員)、開催時期について)

・第4回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年11月8日 13:30～15:00

参加者:4名

議 題:エコビープル支援協議会向けオーダーメイド型講座について

・第1回 学習ユニット開発WG

日 時:平成25年11月13日 15:00～17:00

参加者:5名

議 題:1)株式会社東急エージェンシー実証講座カリキュラム内容検討、2)関東三菱自動車販売株式会社実証講座カリキュラム内容検討

・第5回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年11月14日 13:30～15:00

参加者:5名

議 題:オーダーメイド型実証講座について(日時、実証講座内容について)

議 題:オーダーメイド実証講座について(日時、実証講座内容について)

・第2回 学習ユニット開発WG

日 時:平成25年11月19日 13:00~15:00

参加者:3名

議 題:エコピープル支援協議会向けオーダーメイド型講座について

・第3回 学習ユニット開発WG

日 時:平成25年11月20日 17:30~19:00

参加者:8名

議 題:1)神戸市環境局ヒアリングについての感想、2)21日のスケジュール確認

・第4回 学習ユニット開発WG

日 時:平成25年11月22日 10:00~12:00

参加者:3名

議 題:エコピープル支援協議会向けオーダーメイド型講座について

・第6回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年11月22日 13:00~15:00

参加者:4名

議 題:エコピープル支援協議会向けオーダーメイド型講座について(講座概要、企業事例等について)

・第5回 学習ユニット開発WG

日 時:平成25年11月25日 14:00~15:00

参加者:3名

議 題:エコピープル支援協議会向けオーダーメイド型講座について

・第2回 職域連絡会議

日 時:平成25年11月22日 17:30~19:30

参加者:5名

議 題:コンソーシアム及び各職域プロジェクトの進捗状況を確認し、相互のスケジュール感の整合及び事業計画との齟齬を修正(捗状況報告…コンソーシアム及び各職域プロジェクト、スケジュール調整と事業計画との調整)

・第7回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年11月28日 13:30~14:30

参加者:5名

議 題:オーダーメイド型実証講座について(日時・人数等の確認)

・第8回 オーダーメイド実証講座プログラム開発WG会議

日 時:平成25年11月29日 16:00~17:00

参加者:4名

議 題:オーダーメイド型実証講座について(内容の確認、対象者(受講社員)の確認、開催時期の確認)

・第2回 産学官連携コンソーシアム実施委員会全体会議

日 時:平成25年12月11日 10:00~12:00

日 時:平成25年12月11日 18:00~20:00

参加者:18名

議 題:1)捗状況報告と今後の活動、2)視察・調査報告、3)今後のスケジュール(成果報告会開催予定日、成果報告書仕様(目次案等)について)、4)その他

・第6回 学習ユニット開発WG

日 時:平成25年12月13日 13:00~15:00

参加者:4名

議 題:エコピープル支援協議会向けオーダーメイド型講座の進行についての最終確認と調整

・第3回 産学官連携コンソーシアム実施委員会全体及び第2回 建築・土木・設備職域プロジェクト実施委員会全体合同会議

日 時:平成26年1月31日 18:00~20:00

参加者:15名(総勢31名)

議 題:1)コンソーシアム進捗状況報告(九州大学EQC研究会報告(12月26日)、文部科学省 事業企画推進委員会 報告(1月24日)、有坂学園主催 環境・エネルギー分野に関するシンポジウム 報告(1月28日)、財務省主計局及び文部科学省 本事業視察についての報告)、2)建築・土木・設備職域プロジェクト状況報告(進捗状況報告、カリキュラムユニットについて)、3)その他(成果報告書・成果物まとめ、成果報告会開催について)

・成果報告会

② 調査等(目的、対象、規模、手法、実施方法、結果概要等)

・神戸市視察

【目的】

今回の視察調査先として選定した神戸市は、神戸の恵まれた環境を将来の世代に引き継いでいくため、温室効果ガスの大幅な排出削減を達成すると同時に、低炭素型の都市づくりを地域防災力の強化や市民の健康・福祉、生活利便性の向上につなげ、持続可能な未来型の都市を創出することをコンセプトとして、平成24年度環境モデル都市として選定されている。

都市型でありながら「海」、「山」、「都市」等の環境機能を有するとともに、日本初の「バイオガス」事業を進め、本格的に都市ガスに変換させて普及させるなど、先進的な環境・エネルギーの取り組みを行っており、それらを行う人材要件を顕在化することを視察調査の目的とした。

【対象・規模】

神戸市環境局、神戸市建設局東水センター東灘下水処理場、株式会社神鋼環境ソリューション

【手法】

現地でのヒアリング調査

【実施方法】

合同委員会6名、オブザーバー1名

【結果概要】

事業を推進する上ではコーディネート力を求めており、仕事上の問題解決を行うための調整能力が最も重要であるとのこと。

また、現場としては個々の専門技能を活用する(資格を有する)業務が多々あるが、専門技能は入社後に身につけるといったことであった。

・アンケート調査

【目的】

「企業の環境・エネルギー分野への取り組み」、「本年度実施した実証講座についての評価」、「環境・エネルギー求人状況調査」等 企業規模と業種において、特にオーダーメイド型講座の必要性及び環境・エネルギー分野の修得についての分析調査を行うことを目的とした。

【対象】

上場企業500社

【手法】

アンケート用紙送付

【実施方法】

外部業者に封入、発送、回収、集計分析実施

【結果概要】

回収率20.4%の中で、90%以上の企業は環境・エネルギーへの取り組みを実施している中で80%以上は専門部署を配置している。必要人材については、50%以上が必要との回答があった。その中でも、電気・ガスなどのエネルギー供給部門については100%であった。また、80%以上はプランナー（中級）以上のレベルを求めている。

本年度のオーダーメイド講座については、全体的に長いとの回答があり、企業は短期的なものを求めている。ということが明確となった。

③ モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成（目的、規模、実施体制、成果物概要等）

・モデルカリキュラム基準・達成度評価の作成

【目的】

カリキュラム基準と達成度評価の前提として、全カリキュラム（科目）のシラバス・コマシラバス完成とユニット別シラバス・評価指標の作成する。

【規模】

現モデル科目85科目×シラバス・コマシラバスシート（15時間・2頁、30時間4頁、60時間8頁）。

【実施方法】: 下部組織の学習ユニット開発WGの委員に執筆を依頼すると同時に、外部協力者へ依頼を委員会で決定。

【成果物等】

シラバス・コマシラバス集として作成したが、全科目には至らなかった。
内容と執筆者の精査に時間がかかり、本年度は全履修科目とまではいかなかった。
残りは来年度へ持越し、作成にあたる。

④ 実証等(目的、対象、規模、時期、手法、実施方法、実証結果概要等)

【目的】

- ・関東三菱自動車販売株式会社:環境基礎の学び直し
- ・株式会社東急エージェンシー:企業活動における環境資格取得
- ・エコピープル支援協議会:eco検定取得者を中心としたステップアップ講座として各企業・団体からの声によるオーダーメイド講座の実施。

【対象・規模】

- ・関東三菱自動車販売株式会社:15名
- ・株式会社東急エージェンシー:5名
- ・エコピープル支援協議会:14名(2日以上受講者)

【時期】下記表参照

企業・団体名	オーダーメイド講座	講座概要	講座日程	企業・団体の環境・エネルギーに関する取組
関東三菱自動車販売(株)	環境基礎講座 ～法遵守から顧客満足・価値の創造へ～	①業界状況と環境の基礎知識 ②営業戦略と環境活動レポート ③環境法規、顧客と環境問題の接点	①12月20日(金) ②12月21日(土) ③12月25日(水) (いずれも13:00～18:00)	【事業内容】自動車販売 同社は、環境とクルマの共生をめざし、全社をあげてリサイクル、省エネ活動に取り組んでいる。そのひとつとして、社内にはリサイクル部門(エコ推進室)を常設し、各店舗・事業所から出る、リサイクル可能な資源を収集し、再分別の後、リサイクル業者へ引き渡す活動等を推進している。
(株)東急エージェンシー	環境基礎講座 ～ECO検定資格取得対策～	①環境問題の実態 ②環境と経済社会 ③暮らしと環境、環境経営、環境と共生	①12月 5日(木) ②12月 6日(金) ③12月18日(水) (いずれも13:30～17:30)	【事業内容】広告代理業 同社は環境マネジメント組織の中に「環境活動推進事務局」を置き、同社の環境方針の環境保全活動を推進している。
エコピープル支援協議会	エネルギー視察 調査実習Ⅰ (自然エネルギーを学ぶ)	①自然エネルギー概論 ②【講義】地球温暖化における森林の役割と森林活用の事例をから学ぶ～【実習】森林整備を実習 ③廃油を活用した循環型社会を創る ④自然エネルギーの活用に向けて	①12月 3日(火) ②12月 8日(日) ③12月 9日(月) ④12月17日(火) (②)10:00～17:00 その他18:00～21:00)	【事業内容】eco検定合格者支援 東商のeco検定合格者を「エコピープル」と呼称し、検定で得た知識をアクションにつなげていくための支援活動を実施している。

【手法】

講義(ワークショップの組み込み)及び実習

【実施方法】

委員からの外部推薦講師による実施。

【実証結果概要】

学び直しやステップアップの講座としては、受講者からの評価は高かった。特にエコピープル支援協議会における受講者は、今回は別の場所で開催して欲しい等の声が多数あり、期待値は高いと感じられた。
しかしながら、学び直しにおいては、実務としての経験者と知識はあるが実務未経験者との差があるため、そのバランスの精査が必要であり、今後の課題の一つとなった。

⑤ 成果のとりまとめ等

・事業成果報告書(事業の実施内容及び分析結果)及び成果物4点(テキスト3点、シラバス・コマシラバス1点)の公開、関係機関への配布

【規模】:各500冊

【手法】:データのHPでの公開、関係者教育機関10校、関係企業・団体等300社へ郵送配布。

・成果報告会の実施

【規模】:産学官連携コンソーシアム及び各職域プロジェクトとの合同開催

【手法】:参加委員及び外部協力者への案内

(6) 事業終了後の方針について(成果の活用、継続性、発展性 等)

(事業成果の普及)

①事業成果報告書(事業の実施内容及び分析結果)及び成果物4点(テキスト3点、シラバス・コマシラバス1点)の公開、関係機関への配布

【規模】:各500冊

【手法】:データのHPでの公開、関係者教育機関10校、関係企業・団体等300社へ郵送配布。

(事業成果の活用等)

②オーダーメイド型講座の地方展開(地域特性+産業別モデルの構築)

③「学習ユニット積み上げ方式」等のカリキュラムへの反映

④85科目全シラバス・コマシラバスの完成

⑤連携事業校等との単位互換制度の仕組みづくり

⑥社会人等に対して新たな開発した学習ユニット及びレベルアップとして25年度講座を活かし組み込んだ短期プログラムを提供

⑦高度人材養成のための大学院連携の構築

⑧第三者評価等の評価指標・手法等の構築